



2025/2/11 (火・祝) 14:00-16:00
 みなと交流センター 1F ホール
 参加者 人数：35 人
 (小学 4 年生～高校 3 年生)

2 月 11 日に、今治版ネウボラ拠点施設のワークショップ「じっくりコトコトク (こどもの部)」を開催し、小学生や中高生がワクワクできる場所について話し合いました。

あいさつ：今治市ネウボラ政策課の課長からあいさついただきました

今治市では、「こどもが真ん中の社会」の実現に向けて、公園整備や子どもの居場所づくりを最重要施策として進めています。これまでも、多くのこどもたちから「今治で遊ぶ場所がない」「おしゃべりする場所がほしい」といった声が寄せられてきました。大人たちはその声をしっかり受け止めていきます。



当日のプログラム

1. はじめに
2. 自己紹介
3. レクチャー：他の地域の活動紹介
4. ワーク①：理想の過ごし方
5. ワーク②：こんなコトができるといいな
6. ワーク③：大人へのメッセージ
7. 意見共有
8. おわりに



ワークショップ趣旨説明

事務局から、今回のワークショップの趣旨について説明しました。

この施設は、今治駅から徒歩 5 分の中央公民館付近に建設予定で、5 年後の完成を予定しています。

この施設では、遊び・学び・交流の場を提供し、こどもたちが安心して過ごせる環境をつくることを目指しています。外遊びや音楽、芸術活動の場に加え、友達とおしゃべりをしたり、大人と一緒に何かを学んだりできるスペースも計画されています。

今回のワークショップでは、「どんなことをしてみたいか」「どんな場所があればワクワクするか」を自由に話し合い、未来の施設に活かすヒントを集めます。現在すでに取り組んでいることでも、これから挑戦したいことでも構いません。みなさんの声をもとに、よりよい施設づくりを進めていきます。

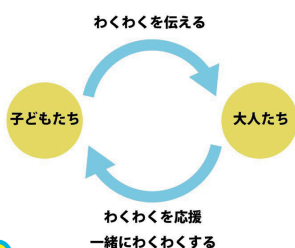
今日は短い時間ですが、ぜひたくさんアイデアを聞かせてください！

知ってますか？ネウボラ施設



外遊びができる広場や体育室、音楽や芸術活動を楽しめる場所、自習したり友達と話せるスペースなど、みなさんと地域の人たちがそれぞれの時間を過ごせる場所を考えています。

そのワクワクを地域全体で応援します



ワークショップの最初に、グループのなかで自己紹介をしたのちに「しりとりチャレンジ」を実施しました。参加者はグループごとに、あらかじめ決められた「はじめ」と「おわり」の言葉をつなげる形で、しりとりを完成させるゲームに挑戦しました。ただし、声を出さずにジェスチャーのみで伝えるルールがあり、自然と協力しながら進める場面もありました。



温かいスープとパンを意見交換のおともに！！

このワークでは、放課後や休日に「どこで」「誰と」「どのように過ごしたいか」について意見を出し合いました。参加者の声をもとに、放課後と休日の理想の過ごし方を整理しました。



こどもたちは、まちなかで過ごす場所
が少ない印象を持っています。

多くのこどもが「イオン」「カフェ」
「ゲームセンター」を利用
→ 買い物や娯楽を楽しむ場が必要

「図書館」「SUNABACO（コワーキングスペース）」での学習ニーズがある
→ 静かに学べる場所が求められている

「公園」や「体育館」でスポーツを楽しむ
は一ぱりのガラスでダンス
→ 体を動かせる施設の重要性

放課後は、学校が終わった後に気軽に立ち寄れる「おしゃべりできる場所」「遊べる場所」が求められていました。

友だちと過ごす場合：カフェで語り合ったり、カラオケで楽しく歌ったりするなど、リラックスできる時間を大切にしたいという意見がありました。

一人で過ごす場合：自宅でのんびり過ごしたいという声もあり、外だけでなく、落ち着ける環境の必要性も感じられました。

休日は、日常とは違う体験ができる「特別な場」「交流の機会」に関心が集まりました。

友だちと過ごす場合：ショッピングやイベントへの参加など、特別な体験を楽しみたいという意見が多く、日常とは異なる刺激を求めている様子が見られました。

新しい人と過ごす場合：イベントで初めての人とつながりを増やしたいという声もあり、さまざまな年代やバックグラウンドの人と交流できる機会に期待が寄せられていました。

▲ 普段の安心できる居場所と、新しい体験ができる場の両方が必要 ▲





他の地域の事例も参考に！

ワーク②：こんなコトができるといいな

このワークでは、地域や新しい施設でやってみたいことを、他の地域の事例も参考にしながら、意見交換しました。個人で楽しみたいことと地域と協力して実現したいことの両面から意見が出ました。個人の活動としては、屋内遊び場やエンタメ施設、気軽に集まれるカフェや勉強スペースが求められました。一方、地域との協働では、職業体験や異世代交流の場、手作り市やカフェの運営など、こどもが地域に関わる興味の高さがわかりました。

1 班

こんなことができるといいな

- ・学校以外の人と交流できる場所
- ・駅の近くに、気軽におしゃべりできるカフェ
- ・雨の日でも遊べる屋内公園
- ・鏡張りのダンスルームや推し活ができるスペース
- ・友だちや家族と一緒に料理ができる調理室

2 班

こんなことができるといいな

- ・中高生向けのカフェ（時間制限なし・低価格メニューあり・高校生がアルバイトできる）
- ・気軽に入れる居酒屋風の交流スペース
- ・音楽セッションができる場所（ピアノ・ドラム・マイク完備）
- ・編み物やワッペンづくりなどのクラフトスペース
- ・動物と触れ合える場所やドッグラン

3 班

こんなことができるといいな

- ・こどもがまちを調べてミニチュアのまちをつくる
- ・公共施設を活用したお仕事体験や社会見学
- ・駅周辺でおしゃべりができるカフェや休憩スペース
- ・夏祭りや文化祭のようなイベントへの参加や運営
- ・水遊び、花火が楽しめる場所
- ・フォトスポットやプラネタリウムなどの施設
- ・秘密基地や泥団子大会など、屋外で自由に遊べる空間
- ・土のグラウンドで木がいっぱいある場所

4 班

こんなことができるといいな

- ・お金をかけなくても（友達と）過ごせる場所
- ・好きな服を着て撮影ができるフォトスタジオ
- ・ボランティア活動に参加できるしくみがある
- ・外国の方と交流しながら言語学習ができる場
- ・市内の穴場スポットを知ることができるマップ
- ・大型モニターで映画やアニメを楽しめる空間
- ・プラネタリウムや水族館のような癒しの空間
- ・体育館でのスポーツ、ランニングマシンが使える環境



5 班

こんなことができるといいな

- ・夜まで使える施設、自由に使えるスペース
- ・ボランティア活動の場
- ・無料で遊べる場所
- ・最新の PC・ゲーム機を備えた空間
- ・ネウボラ施設内での学習や食事
- ・スポーツの機会
- ・スポッチャのような屋内運動施設
- ・エンタメ要素のある施設（プラネタリウム・映画館・アスレチック）

ワーク③：大人へのひとこと

このワークでは、こどもたちが大人に伝えたいことを考え、グループで意見をまとめました。こどもたちは、まちづくりの受け手ではなく、共に考え、関わる仲間として認めてほしいと感じています。

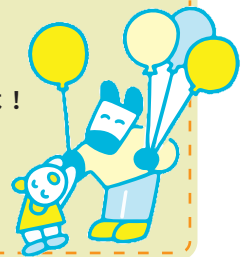


発表

ワークショップの最後には、こどもたちが自分たちの意見をまとめ、それぞれの言葉で発表しました。大人が代わりに伝えるのではなく、こどもたち自身がしっかりと考え、自分の声で伝えたことが、この発表の大きな意義でした。



- ・自分達が持つアイデアと想像力を提供する
- ・大人たちが勝手に話を進めないで！
- ・私達も話し合いに入らせて！一つ権利をください！さそったり、場所を使ったりするよ！
- ・春はお花見、夏は水あそび・花火。キャンプ、ゆっくりリラックス（静か）できる場
- ・自分の特技とか好きなことを自分より下の年齢の子に教えたり体験させてあげられる活動をしたい！
- ・広報活動をしたい！（SNSを使う）
- ・学生がポスターを作る！感想付きの（より身近に感じる）
- ・私たちは積極的に参加して笑顔で楽しみたいです。
- ・話し合いに入れて！
- ・大人の案に意見言えるよ！
- ・みんなを誘う
- ・子どもも使っていい場所があったらつかうよ！
- ・カフェメニュー考えるよ！
- ・中高生カフェできるなら手伝うよ！
- ・年齢関係なくたくさんの人と交流したい



アンケート感想

ワークショップ終了後にこどもたちにアンケートを書いてもらいました。

ワークショップの満足度

「とてもよかった」という回答が多く、全体的に満足度が高かった。理由として「自分の意見を言えた」「意見が反映されると感じた」などがあげられました。

印象的だった言葉やアイデア

「自分たちがやりたいことをはっきり言えた」
「大人と一緒に場所を作ることができると知った」
「もっとこういう場が増えたらいい」

改善点・気になったこと

「もっと発言する時間が欲しい」
「大人が決めるだけじゃなく、子どもが関わる機会を増やしてほしい」
「いろんな年齢の人と話せる場があるといい」

次は大人向け

一般の部

じっくり
子コトコ
トリー

～今治版ネッポラ拠点施設を考えよう～

第1回ワークショップ
「地域でこどもを育てるって？」
3/1（土）14:00-17:00

第2回ワークショップ
「新しい施設の使い方を考える」
4/12（土）14:00-17:00

会場：みなと交流センター